

<p>⑤ ⑦ 9月 10月</p>	<p>をよこすがきたない感じ でいやだ。 ・日中何もしないでゴロ寝 ばかりしている。 ○ 弟：・母に一番かわいがられて いる。 ・自分ほからだが弱く野球 ができなかったが弟は自分 よりうまくて憎らしい。 ・命令しても言うことをき かない。 ○ 母：・大きさに騒ぐからあまり しない。 ・登校拒否の本を買ってき て読み、その感想をきか せる。 ○ 妹：・一番言うことをきくから しない。 ◎一日の生活のようすを話し合う。 ○自分で感じている問題 ・ようやく緊張感がとれ、すなお に語ってくれる。事務室にも抵 抗なく入室できる。</p>	<p>・本人が持っている父親像 をきいてみる。 ・悪いイメージももてない 父について確認し暴力 をふるった父の行動と自 分の行動を対比させてみ る。 ・一日の生活のリズムを話 し合い自分の力で改善で きる時間帯や過ごし方につ いて考えさせる。 ・継続的に続けていける運 動はないか話し合う。</p>	<p>・祖父、弟にくり返えし暴力をふ るうので、カッとなり「殺しつ やる」とおどかしたら顔色をか え、しばらくおちついたが効果 がない。 ◎本人の行動についてきく ・物に対する要求がエスカレート してきた。部屋をゴルフ練習場 につくりかえるので設備を買え と要求して暴れている。 ◎暴力をふるいはじめた時の家族 の態度について話し合う。 ・家族全員が逃げ腰になる。 ○⑥回来以後比較のおちついて きて、祖父に2回弟には全然手 出しはしなかった。 ○お手伝いさんからも、大部表情 が明るくなってきたといわれる</p>	<p>に気づきはじめる。 ・物を与えることよりも、 お手伝いさんまかせにして いる親自身の親子関係の あり方に反省のいろがみ えはじめる。 ・暴れて物を要求されても 決して本人の言うことに 屈しない強さを示す必要 のあることを話す。 ・過去ばかり振りかえり、 夫にのみ責任を負わせて いないかを考えさせる。 ・登校刺激は、いっさい与 えないで接することを約 束する。</p>
<p>※ 学校から教師が2回（うち1回はクラスの友達を伴って）家庭訪問がある。本人は天井裏にかくれて祖父、母の動きをみている教師が帰宅後、誰かれになく暴れまわる。</p>				
<p>⑧ ⑩ 11月 12月</p>	<p>◎一日の生活状況を話し合う。 ○起床時間6：30 ○自分の部屋掃除 ○自分の下着の洗たく（毎週土曜 日） ○日中はT.V視聴と学習 ○新聞のスクラップ（野球記事） ○就寝11：30 ○古いマンガ、雑誌は全部処分 ○鉄アレーで筋肉の強化運動 ◎家業を精いっぱい働いている母 をどうみているか話し合う。 ※T.A.T実施</p>	<p>・一日の生活状況に改善が みられるようになってきた が、さらに、目的的な 生活を送るためには、ど うすべきかについて考え させる。 ・祖父や弟の本人に対する 接し方で変わったことは ないか、もし変わったと すればなぜ変わったのか 考えさせる。 ・最近の母の態度をどう思 うかきいてみる。 ・T.A.Tを実施して欲求 反応結束、領域等につ いて本人の状態像をみる。</p>	<p>◎本人の行動についてきく。 ・要求するものが質的に変化して きた。学習参考書、資料、辞典 を全教科一式いっぺんに揃えた いと言っている。 ・暴力をふるう回数が極端に減っ てきたが、祖父には、まだあた ることがある。 ・弟と枕を並べて寝ることが多 くなった。 ・外出することはいやがるが、床 屋と本屋へは一人で出れるよう になった。 ◎母親自身の考えがどのように変 わってきたかを話し合う。 ・もう一年、現在の学年に留めて も長い目で回復を待とうとい う気持ちになれるようになった。 ・本人の要求にあわてなくなった。</p>	<p>・本人の行動におちつきが みえはじめたためか母親 の情緒面での不安定さが 解消されつつある。 ・心理的な距離を置いて、 子供をみることができ るようになりつつある。 ・親自身の自己中心的な考 え方が是正されてきた。</p>

(8) 考察

登校拒否から家庭内暴力をおこしているこのケースでは、本人のもつ登校不安、肉親に対する不満、能力面で勝る弟への劣等感、愛情欲求への退行等を共感的に受容することから始めた。暴力行為がこの生徒にとって、何を求め、何を意味しているのかを明確にして本人と親へのカウンセリングに当たってきた。段階的にいっさいの登校刺激を絶ち、その中で自分の暴力の意味を考えさせ、相手の立場にたって自分を眺めさせようと努めてきた。精神的なストレスがうつつ積している母に対しては、不満を吐き出させることで情緒の安定を図りながら、「小さい時、きちんとしつけてくれなかった母だから嫌いだ」といわせた養育上の問題を考え、現段階でどう接することが問題の解決

になるのかを態度化することで本人の変容を待った。指導経過で見られるように暴力行為は親の接し方と対照して減少している。次の段階として、耐性を強化し、目的的な生活態度の確立のため、自分の責任で自分の行動を律していける力をつけたいと考えている。T A Tの検査結果では、所属欲求、社会領域に高い数値がみられ、友人・学校生活に対する欲求がみられる。それらに対する不安除去のため今後自律訓練を導入していきたい。